



## GPW 奨学生報告書～2016 年度後期～

平素より大変お世話になっております。  
NPO 法人アクションの戸塚です。

風薫るさわやかな季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。フィリピンでは4月・5月が夏休みのため、子ども達が元気に遊ぶ声が朝早くから聞こえてきます。

奨学生の8名は3月末～4月1週目にそれぞれ修了式を迎え、無事に各学年の課程を終えることができました。2016年度後期の子ども達の様子について、下記の通りご報告させていただきます。

### 1) Balanquit, Reymon P. (8年生)

レイモンは、前期には苦手と話していたフィリピン語が後期は好きな科目へと変化したそうです。後期に学んだトピックは彼にとって理解しやすいものであったとのことでした。また、後期は数学も得意科目として挙げていました。様々な方程式や定理を理解できたことで、簡単に解くことができるようになったようです。そういった変化もあり、後期の成績は前期に比べてほぼすべての教科で点数が上がり、最終的には全て合格することができました。授業を理解できるようになると学ぶことの面白さや楽しさを感じることができるため、できるようになったときの気持ちを忘れずに来年度も頑張ってもらいたいと思います。

3月に学校訪問を行った際には、アドバイザーの先生より、「しっかりと授業に参加しており、問題なく過ごすことができていた」とのコメントをいただきました。

また、家では甥っ子の面倒を見ていると話してくれます。時折、甥っ子と一緒にいる場面を見かけることがあります。常に目を離さずに見守っているのが印象的で、面倒見のよいお兄さんに成長しているように感じております。

週末のストリートエデュケーションでは、自分が担当したグループを引っ張ることのできるリーダーへと成長しています。

### 2) Bautista, QM D. (8年生)

後期は道徳と実技科目（音楽・美術・体育・保健）を楽しく学ぶことができたようです。道徳はトピックが面白かった、実技科目は特に体育で好きなダンスを学ぶことができたので楽しかった、とのことでした。また、学校では授業で学んだフォークダンスを披露する機会もあり、自分の好きなことを深められるよい機会になったのではないかと思います。更に、前期は苦手と話していた数学も前期より理解することができるようになったようです。最終成績については、技術家庭科と保健以

外で 80 点以上を収めており、キューエムの学業への頑張りがしっかりと結果に表れたのではないかと思います。特に主要科目で安定した成績を修めており、嬉しく思っております。

アドバイザーの先生からは「朗読が良くてできる」との評価をいただきました。しかし、授業態度には引き続き課題があり、強情である・言うことを聞かないといったフィードバックがありました。どの授業でも同じような課題が見られるため、容認できない状態であるとのことでした。このような態度は当会の事務所に奨学生が集まった際等にも頻繁に見られるため、キューエムにとって大きな課題です。周囲への影響を考えて行動できるようになるために、継続的な声かけや課題克服のための長期的なアプローチを行っていく必要があると考えています。

一方で、学校に休まず通う・積極的に活動に参加することができる点がキューエムの長所です。この点は週末のストリートエデュケーションの際にもよく見られ、活動への出席率も高く、人前で積極的に発言する姿もよく見られます。また、奨学生としての責任ある行動が見られる機会も増え、成長が感じられます。

### 3) Caranzo, Cristy B. (8年生)

クリスティは家庭の事情により、叔母の家にお世話になっていましたが、昨年 12 月下旬に自分の家に戻り、現在は両親と一緒に生活ができているとのことでした。また両親と一緒に住むことができ嬉しい、と話しています。なお、今回の引っ越しに伴う転校はせず、毎日自宅から学校に通い続けました。アドバイザーの先生からの評価も、前期同様積極的に授業に参加しており、とても責任感のある生徒の 1 人である、という嬉しいコメントをいただきました。

勉強面では、理科や技術でソーラーシステムや地震など地球に関することを学んだことが面白かったそうです。また、フィリピン語で学んだトピックも分かりやすく楽しかったとのことでした。後期を通じて苦手と感じたのは実技科目（音楽・美術・体育・保健）で、体育のダンス・美術のカラーリング等で取り組んだ課題や、保健でアルコールとタバコの影響の違いを理解するのに苦労したとのことでした。

後期の成績は、全体的に前期よりも上がっております。すべての教科で 80 点以上を収め、特にフィリピン語と道徳は 90 点以上の好成績を収めることができました。クリスティの努力の成果が成績にも表れており、嬉しく思います。

ストリートエデュケーションでは、引き続き積極的に取り組む様子が見られ、グループのリーダーとしてチームをまとめ、引っ張っていく力もついてきているように感じられます。

### 4) Domingo, Precious Jane C. (10年生)

12 月はフィリピン語が難しいと話していましたが、1 月以降は好きな科目として挙げていました。トピックの内容が理解できるようになったことで気持ちに変化があったようです。また、理科や実技科目（音楽・美術・体育・保健）についても楽しく学ぶことができたようです。1 月の音楽の授業では「“Jeepney” という歌をグループで披露した際、94 点を取ることができた」と話してくれました。社会

科では貯金について学び、学校の課題として Eastwest Bank に学生用の口座を開いたそうです。このことを将来のために貯金するということのモチベーションにしていきたい、とも話していました。

アドバイザーの先生からは、「授業で出された課題に対して責任を持って取り組むことができる」とのフィードバックをいただきました。遅刻や欠席については、前期と同様に、午前・午後の 1 限目の遅刻が多いとのこと。本人にもこの件について確認したところ、早く目が覚めていてもなかなかベッドから出ることができない点が課題とのこと。自身の課題について本人が理解しているため、今後は強い意志を持って自身の課題克服のために努力する必要があります。自身の力でしっかりと乗り越えることができるよう、家族にも働きかけながら来年度も見守りたいと考えています。

成績については、後期も好成績を収めており、英語以外の教科で 80 点以上、8 教科中 6 教科で 85 点以上を獲得しています。プレシャスの学業に真面目に取り組む姿勢が成績にもしっかり反映されており、大変嬉しく思います。

ストリートエデュケーションでは、前期に引き続き、メインファシリテーターとして、アクティビティ全体をリードする重要な役割を果たしてくれています。また、奨学生としての責任感も人一倍強く、「こども達のために」と考えて動くことのできる、信頼できるリーダーとして成長していると感じています。

なお、プレシャスは今年度高校の前期課程（日本の中学校にあたる）を卒業し、来年度からは後期課程に進学いたします。

#### 5) Labana, Jornalyn (10 年生)

アドバイザーの先生によると、後期は欠席も少なく、しっかりと学業に専念できていたとのこと。成績にも問題はなく、各教科で出された課題も全て提出できているとのことでした。

ジョルナリンにとって後期 1 番興味を持つことができたのはフィリピン語だったそうです。授業で取り上げるトピックが理解しやすく、好きな内容であったとのことでした。苦手な科目は数学と理科で、特に数学の統計学と物理学が本人にとっては難しく、理解できずに苦労したとのこと。

後期は、ほぼ全ての科目で成績が上がりました。最終成績では、8 教科中 6 教科で 80 点以上を獲得しています。昨年度は学校の先生との関係がうまく築けず、転校して環境を変えるなどしており、落ち着いて学業に取り組むことができませんでした。本人としても昨年度の成績には納得しておらず、今年度は巻き返したいと話していました。ジョルナリンの強い意志がしっかりと成績にも反映されており、本人の努力が感じられる 1 年となりました。

ストリートエデュケーションでは、前期同様、プレシャスに続くメインのエデュケーターとして活躍してくれています。リーダーとしてチームを引っ張る力、まとめめる力、こども達への配慮などが優れており、積極的に活動に参加している様子が見られます。今後、奨学生として更に責任感を持って行動できるようになると確信し、期待を寄せています。

なお、ジョルナリンは今年度高校の前期課程（日本の中学校にあたる）を卒業し、来年度からは後期課程に進学いたします。

6) Liquido, Joven A. (9年生)

ジョベンは、後期も元気に学校に通うことができました。昨年からの病気がまだ完治しておらず、その日の体調によっては休養が必要な場合もあります。自分自身の体調を見極めながら1年間通い、学業に取り組みました。

勉強面では、経済学に興味があるようで社会科が好きとのこと。フィリピンの経済成長や国内のビジネスに関して学ぶことが面白い、フィリピンの歴史についても興味がある、と話しています。また、ロールプレイ形式でフィリピンの経済発展について学ぶ機会もあったそうです。道徳もフィリピンのイベントについて学んだことが楽しかったとのこと、自分の国に対してとても関心が高いと感じました。家庭科では調理のプロセスを学んだり、家事に関連することを学んだりすることが面白いそうです。苦手な科目は理科・英語・数学だそうです。理科は科学の元素周期表や元素記号を覚えることや、物理のトピックを理解することが大変と感じているようです。また、英語の専門用語を覚えることや数式を使って問題を解くことも苦手なようです。数学は三角関数が難しく大変と話しています。

なお、理科については上記の理由から成績が落ちてしまい、1月に担当の先生から呼び出しがありました。先生はジョベンの保護者との話し合いを希望されていましたが、祖母の時間がなかなか取れないため、当会の担当職員が学校訪問を行いました。ジョベンの理解がなかなか追いついていないこと、また小テストの日に病気で欠席してしまい、点数を取ることができなかったことが、成績低迷の理由だそうです。先生としては保護者の方にジョベンの学習状況を理解していただきたいということだったため、当会職員が2月に家庭訪問を行い、ジョベンの祖母と話し合いの機会を設けました。祖母は、ジョベンの勉強内容がわからないため教えることは難しいが、自分自身で問題を解決していけるようにサポートをしていきたい、とおっしゃっていました。なお、3月の学校訪問の際には、アドバイザーの先生から成績は問題なく、授業態度も良好とのフィードバックをいただきました。また、授業の課題にしっかり取り組んだことで成績も上がったとのことでした。成績表でもほぼ全ての教科で前期よりも点数が上がっており、一部の教科では85点以上を獲得しています。ジョベン自身が自分の課題にしっかりと向き合い、取り組んだ結果ではないかと思います。

ストリートエデュケーションでは、開始前のお祈りやアイスブレイキングの担当を率先して行い、グループのリーダーとしても活躍してくれています。積極的にアイデアを出し、チームを盛り上げる姿も見られました。

なお、5月現在のジョベンの様子ですが、まだ体調が本調子ではないようで、疲れやすい状態が続いているそうです。また、家庭の事情もあり、来年度は再度休学をさせたいと祖母より相談がありました。当会の担当職員とジョベンの間でも直接話し合いを行い、本人としても未だに体調が戻っていないことが心配で、休養してまず体調を整えたいと考えているそうです。更に、今年度はジョベンの育ての親で

ある祖母がマニラに出稼ぎに行くことが確定しており、生活をともにする家族がいなくなるため、ジョベンは少し離れた実姉のところで暮らすことになるそうです。フィリピンでは、学校に毎日通うことが難しい環境にいることも達が学業を続けることができるよう、在宅学習制度を設けています。引っ越し先でこういった制度を利用して学業を続けられる可能性があるかどうか、現在模索しております。ただし、家庭の状況と本人の体調次第では1年間休学することも考えられるため、慎重に検討したうえで改めてご相談・ご報告をさせていただきます。

7) Narvasa, Chito (9年生)

勉強面では、フィリピン語の先生の教え方が上手でわかりやすいため、フィリピン語が好きな科目だそうです。また、英語のトピックもわかりやすいとのこと。苦手な科目は実技科目(音楽・美術・体育・保健)で、自身では音楽や美術が得意ではないと感じているようです。恥ずかしがり屋の性格なので、歌やダンスを人前で披露することが苦手と話しています。また、学校の先生からもチトは歌やダンスに関して自己評価が低いとのコメントがありました。

12月に学校訪問を行った際、アドバイザーの先生より、社会科の課題が出されず、第2回の中間成績評価に影響しているとのコメントがありました。グループワークの課題は提出されているが、個人の課題ができていないとのことでした。本人に確認を行ったところ、課題製作のための材料を買う金銭的余裕がなく、提出できなかったとのことでした。その後、担当の先生と話し合い、課題に代わるレポートを出すことになりました。レポートは該当教科に関連するテーマをチト自身が考えて取り組み、提出を終えています。

更に、3月に学校訪問を行ったところ、2月からきちんと学校に来ていないとの報告がありました。その影響で、技術家庭科と実技科目(音楽・美術・体育・保健)の成績を出すことができないとのことでした。先生方が何度もチトと話し合う機会を設けてくださいましたが、何につまずいているのか・何か問題を抱えているのかを尋ねても、チトは答えなかったそうです。この報告を受け、当会の担当職員がチトの家庭訪問を行い、母親から話を伺いました。母親によると、チトはまた友達の悪い影響を受けており、それが再度学業に影響しているとのことでした。当時は夜遅くや明け方に帰ってくる日が続いていたようで、友達の誕生日会に行った日は家に戻らなかったそうです。その日にチトが学校に行っていないことに気づき、それ以降はチトの姉がモニタリング役となり、チトの学校での行動を確認するようにしていたとのこと。当会の担当職員への報告は一切なかったため、職員の学校訪問により発覚することとなりました。

チトと母親の間で話し合いを重ね、3月8日からはチトも態度を改め、学校に戻ったとのこと。その際、チトは母親にこれまでの自分の間違っただけの行為に関する謝罪の手紙も渡しており、母親はチトが心を入れ替えて学業を継続することを期待し、その謝罪を受け入れたそうです。

チトは、昨年の不登校に続き、2回目の不登校となりました。いずれも学年の終盤に起こっているため、今後は更に注意を向け、特に後期はこまめにモニタリング

を行っていく必要があると感じました。また前回同様、今回も当会の職員への報告はなく、学校訪問を行った際に発覚しました。これはチトの両親との間の課題であると強く感じています。早くに報告があれば、子どもへのカウンセリングやフォローアップ等、当会の担当職員からの子どもへの支援の幅が広がります。このことをしっかりと理解していただく必要があると感じました。また、そういった話がしっかりできるようになるために、ご両親との信頼関係を強化することも重要です。

ストリートエデュケーションでは、アイスブレイキングやチームリーダーといった役割を担ってくれています。一方で、学校での様子と同様に恥ずかしがり屋の性格のため、積極的に活動できるようになることが今後の成長課題です。

なお、チトの後期の成績についてですが、5月25日現在、まだ成績表を受け取ることができておりません。昨日までチトの母親が早産で入院していたため、体調が落ち着いた後で学校に成績表を取りに行く予定である旨の連絡を受けております。そのため、チトの成績については追ってご報告させていただきます。

#### 8) Velasco, Aris (8年生)

12月に学校訪問を行った際、アドバイザーの先生からは前期よりもよく学校に通うことができているとのフィードバックをいただきました。しかし、一定日数の欠席が変わらずあるため、当会の担当職員がアリスの家庭訪問を行いました。母親によると、アリスは肺の病気が再発しており、疲れやすい体質になってしまっているそうです。そのため、本人が疲れを感じる際は休ませるようにしているとのことでした。担当職員からはアリスが学業を継続できるよう、母親からも声かけを積極的に行なってもらえるよう話をしました。

家庭内の問題については現在落ち着いてきており、日常の生活を取り戻しつつあります。また、今年1月からは両親と離れ、叔母と一緒に生活をしているとのことでした。場所は両親が住む家から近く、一人暮らしの叔母の手伝いをする中で、学費をサポートしてもらっているとのことでした。しかし、これまで抱えてきた問題がアリスの中で解消できたのかどうか、乗り越えられたのかどうかについてははっきりと把握できていないため、今後もアリスの様子を注意深く見守り、声かけを継続していく必要があります。

勉強面では、フィリピン語が後期は面白かったようです。内容も分かりやすく、地域の中で行ったフィールドワークも面白かったそうです。フィールドワークでは、自分が住んでいる地域の住民がドゥテルテ大統領の政策をどうか感じているか、地域内の住宅を訪問して調査を行ったとのことでした。苦手な科目は数学で、問題を解くのが難しいと感じているそうです。成績は前期に比べてほぼすべての教科で点数が上がっており、少しずつ理解が深まっているように感じられます。この調子で来年度も学業を継続して行ってほしいと思います。

ストリートエデュケーションについては、前期同様、家庭の事情や体調不良等の理由があり欠席が目立っています。しかし、参加した際には子ども達の輪の中心に立ってアイスブレイキングを担当してくれています。活動を通じて少しずつ自分の自尊心を高め、自信を持ってできることを増やしていけるように、継続的な働きか

けを行っていきたいと考えています。

GPW 奨学生 8 名は、今年度も無事に全員がそれぞれの学年を修了することができました。8 人とも家庭や自分自身に様々な課題を抱えながらも、精一杯学業を続けているように見受けられます。一方で、現在置かれている自分の環境や状況の中でうまく対処ができず、結果的に学業に影響が出てしまっていることも多いと感じています。普段の生活が安定していなければ、学業に集中することは容易ではありません。しかし、家庭の問題には当会で支援しきれない部分やコントロールできない部分も多くあります。そのため、日々の関わりの中でどれだけ子ども達の変化に気づくことができるか、子ども達が抱える問題や課題に早期に対応できるかが重要となります。カウンセリング等を通じて、学業面の支援だけでなく、子ども達の精神的な安定や安心できる場所も提供できるよう、担当職員とともに一層努力していきたいと考えております。今後も子ども達に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017 年 5 月 30 日

報告者：戸塚 真希（フィリピン事務局）